八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人文社会科学 (日本語文法) (0000)
科目基礎情報					
科目番号	0080	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	物質工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教員作成プリント				
担当教員	太田 徹				
到達目標					
外国人が日本語を書けるための日本語文法の課題を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	留学生の日本語作文のどの部分を直すのかをよく説明できる。	留学生の日本語作文のどの部分を直すのかを説明できる。	留学生の日本語作文のどの部分を直すのかを説明できない。		
	判断と推理をよくわけることができる。	判断と推理をわけることができる。	判断と推理をわけることができない。		
	推理の形成と解体をよく説明できる。	推理の形成と解体を説明できる。	推理の形成と解体を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語文法はヨーロッパ言語をモデルにしてきた。しかしモデルはモデルであり、中身に踏み込むと大きく異なる。たとえばヨーロッパ語の動詞は主語の人称や性によって動詞が形を変えるのにたいして日本語は形を変えない。しかし日本語は、連用形や連体形のように、別の理由で動詞語尾が変化 する。かつて橋本進吉 (1882-1945) から学校文法へいたる文法が、ヨーロッパ言語をモデルにし、日本の「文法」として定着してきた。この文法にたいして、時枝誠記 (1900-1967) は言語過程説をと な え、こうしたヨーロッパ言語と日本語とが違 うことに着目させた。授業では、ヨーロッパ言語と日本語をくらべながら、言葉がどのようにして生まれ出てきてそれが形をとるのかを考えていく。				
授業の進め方・方法	授業は、前半はフランス人学生に日本語作文を 1 時間教え、その後日本人学生と教員とがその日本語の教えるな かで発見したもののが何だったのかを話し合うなかで、日本語文法を考えていく。				
注意点	授業前半はヨーロッパ人に日本語を教えながら、後半はその教えたこと の理解である。授業のなかに転換がある				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	体言		
		2週	体言		
		3週	複数の体言		
		4週	体言から用言		
		5週	体言から用言		
		6週	体言と用言の結びつき		
		7週	体言と用言の結びつき		
		8週	まとめ		
	2ndQ	9週	体言の修飾		
		10週	用言の修飾		
		11週	文		
		12週	段落		
		13週	文の並び		
		14週	段落の並び		
		15週	表題		
		16週	まとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	レポート	授業	合計		
総合評価割合	60	40	100		
基礎的能力	60	40	100		
専門的能力	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0		